

# 花咲かだより

題字 森 キヨさん

社会福祉法人 緑寿会

特別養護老人ホーム 山科苑

デイサービスセンター 山科苑

居宅介護支援センター 山科苑

京都市山科区大塚野溝町3番地

TEL (075) 593-0800

[ryokuju@agate.plala.or.jp](mailto:ryokuju@agate.plala.or.jp)

<http://www3.plala.or.jp/ryokuju/>



ようこそ! 山科苑へ



1995(平成7年)  
第3回敬老会



1994(平成6年)  
第2回敬老会



1994(平成6年)  
第2回敬老会



1993(平成5年)  
記念すべき第1回敬老会



2000(平成12年)  
イーハートブ弦楽団



1998(平成10年)  
京都角笛クラブ



1997(平成9年)  
城陽民舞会の舞踊



1996(平成8年)  
職員による花笠音頭



2004(平成16年)  
職員による大道芸など



2004(平成16年)  
第12回敬老会



2002(平成14年)  
フルート四重奏



2001(平成13年)  
十周年記念の年(第10回)



2007(平成19年)  
特製刺身の板盛り披露



2007(平成19年)  
朝鮮民族舞踊



2006(平成18年)  
上七軒舞子舞踊



2005(平成17年)  
光の音符コンサート



2010(平成22年)  
職員による混声合唱



すばらしき **大先輩** を祝いたい



2009(平成21年)  
辰馬流 真澄会 創作舞



2008(平成20年)  
職員による敬老コンサート

この度の東北地方太平洋沖地震、及び、台風十二号により被災されました皆様に、心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

### ご挨拶

施設長 吉澤 英樹

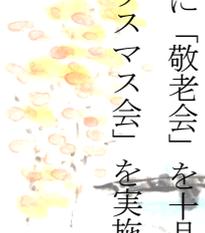
初秋の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より当法人運営にご支援ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

本年度も、山科苑では六月に「創立記念大運動会」を、七月には西念寺保育園の園児の皆様と一緒に「七夕」を、八月には「夏祭り」「大文字送り火&花火大会」を実施いたしました。

(内容につきましては、ブログをご覧くださいませ。)

毎年の恒例の行事ではありますが、あつという間に行事の時期がやってきて、あつという間に終わってしまい、また一年また一年と、時が経つのが本当にすぐ早いです。毎年の繰り返し事ではありますが、ご利用者には、いつも楽しんで頂いております。内容についても、ご利用者に喜んで頂くべく毎年毎年レベルアップしているように思われます。ぜひとも、ご家族様にはお時間の許す限り「行事」に参加していただければと思います。

今後の、行事予定と致しましては九月十九日に「敬老会」を十月に「遠足」、十一月に「紅葉ドライブ」十二月に「クリスマス会」を実施する予定です。



西念寺保育園の皆さんによる七夕

## 7月



6月 創立記念大運動会



8月16日五山送り火&花火大会

8月 恒例の(えっ!! 知りませんか?) 山科苑の大文字が点灯しています。



# DS デイサービスセンター

## 今年の夏祭りも盛り上がりました!



### ポータルレース

「また、負けた」  
\*景品が足りなくなるくらい、皆さん勝負強い!



### モグラたたき

「叩こうとすると、隠れるのよ〜」  
3日間で、もぐらは破壊されました。



### 盆踊り

一緒に踊ってくださるご利用者もおられ、もう一曲とのリクエストもありましたが、時間の都合で、申し訳ありませんでした。



### 弓矢でドラゴン倒せ

「これ、むつかしいわ〜」  
\*何度も挑戦されていました。

### 射的

「あたし、倒せるかなあ」  
\*全部倒されました

### 屋台でお昼ごはん

焼きそば、たこやき、焼き鳥、アメリカンドック、おでん、ししゃも、そうめん、おにぎり・・・皆さん、美味しそうに召し上がられました。

## いっぱい楽しんで、思いっきり笑って、元気になって

50歳を前にして、最近一つひとつの動作に「よっこいしょ」と言っている自分に気が付きました。まだまだ頑張るぞっ、と自分に言い聞かせながら、ふと人はいつまで頑張るのだろうか。定年を迎えるまで?・・・子供が一人前になるまで? 今、山科苑をご利用くださっている皆様は、今よりも大変な時代を、幼い頃から働き詰めで生きてこられました。でっ、もう頑張らずに楽をしておられるかと言えば、とんでもない。病気や年齢、人間関係、自分自身・・・と向き合い、しかも失礼ですが疲れた心身で頑張っておられます。皆様にはほんとに頭が下がります。(遊んで暮らしたいと思ってる私はなんと恥ずかしい)

今を楽しんでいただく、今を楽しもう。楽ばかりしては楽しくない。皆様が私達の至らない企画やゲームにこんなにも楽しんでくださるのは、普段頑張られているからだと思います。また、明日からも一緒に頑張りましょう、そして一緒に楽しみましょう。これからも、よろしくお祈りします。



# 靴の生活、裸足の生活

階段フロアで生活をされているご利用者ですが、その生活の様子は様々です。キミさん(仮名)は普段から、フロアにおられるが、その都度靴と靴下を脱いでおられました。フロアの床は塩ビの床材で夏とはいえ涼しいというよりも冷えてくるので、スタッフは「靴をはいってください」といった声かけと靴を履くケアを継続していました。

「なんで、キミさんはいつも靴を脱ぎたがるだろう」と疑問の声がフロアから聞こえてきました。あるスタッフが「脱ぎたいからじゃない」「脱ぎたいから?」「でも、もともと私たちも家に帰れば真っ先に玄関で靴を脱いでいる」「逆にずつと靴を履いていると、窮屈に思うかもしれない」ということで、フロアの設え担当が中心となり、どうすれば心地よいフロアにできるかを検討。結果、ホームセンターで一枚249円のタイルカーペットを購入し、フロアへ敷く事にしました。写真を見てもらえば分かるように、心地よいかどうかはごらんの通り。介助するスタッフも床に座り込んで、「うわ、めっちゃ気持ちいいし、介助も楽や」と。とりわけ斬新な取り組みではないですが、このような現場のスタッフが自らご利用者の生活を良くしたいと思う気持ちをフロアでは大切にしていきます。



フロア設え担当 井上 麻矢 多岐 ゆみこ

# 認知症高齢者にとっての環境



階段フロアでは認知症高齢者にとっての環境を望ましいものにする取り組みとして PEAP を実施しています。平成19年に同じ取り組みを行い、CLC(コミュニティライフサポートセンター)での実践者セミナー、近畿老人福祉施設協議会などで発表したものです。あれから4年たち、ご利用者やスタッフも入れ替わり、今一度環境を整えたいと、現場スタッフから声が上がりました。PEAPとは、「ピーぷ」と読み、Professional Environmental Assessment Protocol(専門的環境支援指針)の略です。ケアの現場で、どのような環境設定をすればよいのか考えたり、現状において足りないもの(考え方)や、反対に優れている点は何か?を知ろうとする時に役に立つ指針です。スタッフが認知症利用者を利用者体験し、気になる所を写真に撮ります。その写真をもとにキャプション(コメント)を作成し各自評価を行います。

すべてのフロアスタッフが体験、キャプション評価をおこなった後、評価をまとめ改善点を洗い出し環境を整えていきます。



↑利用者体験で昼食をご利用者と一緒に行っています。テーブルの高さや光の入りが、室温、臭い、音、職員の動作などほんの些細な気づきがきっかけになり、よりよいケア、環境設定が生まれてきます。

介護主任 吉田 子鹿代

# 目撃してしまおう



科苑おやつバイキングを行いました。実は、当苑での初めての試みであり、当初は、「大丈夫かな。喜んでもらえるかな」と担当者共々、心配していましたが、始まるやいなや、なんと大盛況!!左写真のメニュー表で、各おやつ3点まで選択出来るのですが、ご利用者の中で、メニュー表を指され「これも、それも、うん、あれもや」と全部頼まれる方笑や普段、少食気味のご利用者も複数の注文頂きました。おやつよりも、飲み物に使っているコップや皿などに「この皿は味わい深い皿やな、高かったやろ」と、お褒めの言葉を下さったご利用者もおられました。・・(苦笑)



生活相談員 神田 浩



# 色々やっていますよ

山科苑ではホームページ、ブログを公開しています。「そんなもんあったんか」との声も多い為、今回はご紹介させていただきます。



山科苑のホームページ <http://www3.plala.or.jp/ryokuju/> 花咲かだよりのバックナンバーや各事業所の情報などを掲載しています。ブログもここから見られます



山科苑のブログ <http://pub.ne.jp/ryokujin/> 苑での色々なイベントを写真も載せて掲載しています。↑おやつバイキングの記事

# 伝える

# 京都の人にもしっかり見て伝えてほしい



三 月十一日に起きた大震災から三ヶ月経ち百か日を迎えるようとしていた六月十三日十九日、津波の被害が大きかった宮城県に京都市より災害派遣として介護職ボランティアの活動を行ってきました。阪神大震災も小学生で殆ど知らずにいた私にとっては今回の大震災で見た現状は衝撃的で、派遣募集を見て今の自分にできる事をしたいと思いき志願しました。派遣先は女川町にあるグループホームで、建物被害はありませんでしたが職員の忌引きや体調不良で人員不足となっていました。津波の被害は甚大で、病院もスーパーも流され、どこに行くにも被害のあった地域を通らなければいけない、腐敗した海水やゴミの何とも言えない臭いと瓦礫や道路にたまった泥が乾いた砂埃で窓も開けられない。毎日津波被害の影響を受けずには生活できない現状はストレスだけでなく毎回の大きな悲しみを与えていました。そんな中でも職員の皆さんは「京都の人にも被害の大きさを知ってほしい、しっかりと見て伝えて下さい。」と私を被害の大きかった地域に連れて行って下さいました。利用者さんは代わる代わる来る他府県からのボランティアをとても温かく迎え入れて下さり、予想に反した明るい笑顔に私が元気を頂いたぐらいでした。一週間と短い期間で私が被災地の皆さんの為にできた事は少しでしたが、派遣を通して当たり前だと思っていた今の生活の幸せを改めて感じ、命の尊さと共に、より一層介護施設で働く者としての責任を自覚することができ、私にとって大きな糧となりました。少しでも早い復興と被災者の皆さんの健康をお祈りしています。



- 派遣チーム
- 同和園
  - 長楽園
  - 野菊荘
  - 京都老人ホーム
  - 山科苑 (順不同)



京都から北陸自動車道、新潟を經由して、約880km、12時間をかけて、宮城県石巻市、女川町へ。



ご利用者、ご家族、見学者などへ壁新聞を作成し広く震災の被害とそこに生きるひとの思いが伝わるように…



津波で何もかも流され、見渡す限り平野になっている。



テレビで見かける女川港の様子。ビルが根こそぎひっくりかえっている。



がれきの撤去作業が行われている。いつになればもとに戻るのだろう。



満潮になると、生活道路が浸水し、通れなくなる。汚水の臭いもきつい。



ご利用者へ派遣体験を報告。派遣者の身をもって体験してきた目を覆うような内容に胸が詰まる。そしてそこで生活する宮城の人たちのひたむきな文化と人柄を改めて知る。

東日本大震災 被災地介護施設への介護職等の派遣者 介護職員 上嶋麻理子 副施設長 岸田 光彦



**苑**では栄養士が一人ひとりにお話を聞き、ご利用者の誕生日に希望の献立をお出ししています。先日  
も5月に入所されてきたばかりのK.N.さんの嗜好調査を行っていたところ、たまたま3週間後に誕生日があり、「わたしは鍋物が大好きで、わざわざふぐ鍋を大阪まで食べに行っていたんや。お鍋料理が大好きやねん」とおっしゃられたため、「ふぐは無理ですけど、すき焼きなら出来ますよ」と2階のご利用者で鍋パーティをしました。ご本人が喜ばれていたのはもちろんの事、他のご利用者たちも「久しぶりやな〜!」「やっぱり熱々は美味しいわ」と楽しく賑やかに誕生日をお祝いしました。そのすき焼き鍋パーティがとても印象的だったのか、同じ2階のご利用者で8月に誕生日のT.N.さんも「私もこの間のような『すき焼き鍋』をしてみんなに喜んでもらう顔を見たい。是非すき焼き鍋をして欲しい」との事でした。しばらく2階はお鍋が流行りそうな予感が・・・



★食事座談会を開きました★

7月8日、18日と各フロアの8名のご利用者と副施設長、相談員、給食委員、栄養士で「山科苑の食事について」いろいろと気兼ねなくお話をさせていただき会を開きました。日々の感謝のお言葉やご意見を頂きましたので、皆さんのお話から、普段の食事に反映できるように職員一同これからも頑張りたいと思います。

管理栄養士 山下 咲子



平成23年7月1日より「産地情報の伝達に関する法律」(米トレーサビリティ法)が施行され、デイサービスなどでも給食を提供するご利用者に対してお米の産地の伝達が義務付けられました。当苑では委託給食会社の富士産業との契約で滋賀県産米を使用しています。安心してお召し上がりください



「<sup>こめ</sup>米トレーサビリティ」とは

適正なお米の流通のための制度で、問題が発生した場所などに、流通ルートをややくに特定するため、米穀等の取引等の記録を作成・保存すること、産地情報を取引先や消費者に伝達することを義務付けるものです。

## 居宅介護支援センターだより



この夏、何度目かの車の免許の更新でした。私は社会人になってから免許を取ったのですが、生来の運動神経の鈍さもあって相当苦労したクチです。そんな印象をかもし出しているのか利用者さんから未だに「アンタ、運転できるの？へー。エライね」等と妙に驚かれることもあり、内心ちょっと複雑。それでも、今は車がないと仕事に支障が出てしまうくらいなくてはならないものになっているのですが、困りごとがひとつ。訪問先で駐車スペースを確保することです。全ての家に車庫があるわけではありませんし、狭い道も多い土地柄、いくら許可をもらっていてもおっぴらに路上駐車をする訳にもいきません。「車、止められた？」と気遣ってくださる利用者さんに、申し訳ないなあと思うこともしばしばです。おかげでコインパーキングをチェックすることが習慣になりつつある今日この頃。じゃあバイクがあるじゃないかと。アナタの場合、危険過ぎるのでやめておけとお達しが…バイクにすいすい乗れる人がうらやましい限りです。

ケアマネジャー 中村 里美

※駐車場の話に関わって…平成23年9月1日より『京都おもいやり駐車場利用制度』が始まっています。公共施設や商業施設などに設置されている車いすマーク駐車場を適正に利用いただくため、京都府が利用証を交付する制度です。利用証の交付は障害のある方、高齢者や妊産婦の方など「歩行困難な方」が対象です。対象となる方の要件や申請方法など詳細はお問い合わせください。

＜問い合わせ先：075-414-4551、4556 京都府健康福祉部福祉・援護課＞

## “多事想論” 副施設長より

給食委員会より普段の利用者の“食”に対する意見を聴く機会を持つということで、フロアごとに分かれてご利用者とスタッフを交えて日々の食事について忌憚のない話を聴く機会を設けた。京都独特のあいまいさと取り繕う文化の世界にあって、そもそもお世話になっている施設に忌憚のない話をしてもらえるのか。その中で本音を引き出すことができるのか。自らの傾聴トレーニングもかねて司会進行を行った。

何気ない会話の中に見られる本音、それを引き出すための場作り、本音を汲み取るための対話術、個人の意見に巻き込まれない司会術、ユーモアで交わせるウイット術、垣根なく本音が湧き出る雰囲気創造力、そして何より先入観のない柔軟な感受性。そんなことを思いながら、調理方法、味付けなど和やかな中にも少々耳の痛くなる話や提案もあり。日々のご利用者との語らいが大きく役立った。そんな中であるご利用者から「献立だけが私の楽しみ、その献立に思っていた期待と実際に出てきた食事とのギャップに愕然とする」という鋭い指摘を喰らった。

空想と現実のギャップはわれわれでも雑誌の中のお店と実際のお店の味の期待はずれはよくある話で、人は言葉に大いなるイメージや空想を抱く。そしてイメージ通りの現実には存在しないと分かりながらもやはり空想し、落胆する。目で見るのと耳で聞くのとの違いである。その人にとって体感した美味しさも掲示された献立の中の言葉からは多様な美味しさが一人歩きしている。

改めて、物事は言葉だけでなく五感を通した実践の中にならば確かさは見出せない。先日の被災地支援活動の中で、壮絶な被災地の傷あとをメディアが言葉や映像を通して訴えるが、その地に立って、自らの目で見て、聴いて、感じる中でこそ被災者の喪失感と復興を願う思いや語りの意味を強く感じることを体験した。メディアの語る言葉が一人歩きしないように当事者と身近に関わり、つながること。

そんなことを考えると、栄養士や厨房の人々も献立のもつ果てしなく広がる多様な空想と日々戦っているのだと実感した。

副施設長 岸田 光彦



## 居宅介護支援センターだより



この夏、何度目かの車の免許の更新でした。私は社会人になってから免許を取ったのですが、生来の運動神経の鈍さもあって相当苦労したクチです。そんな印象をかもし出しているのか利用者さんから未だに「アンタ、運転できるの？へー。エライね」等と妙に驚かれることもあり、内心ちょっと複雑。それでも、今は車がないと仕事に支障が出てしまうくらいなくてはならないものになっているのですが、困りごとがひとつ。訪問先で駐車スペースを確保することです。全ての家に車庫があるわけではありませんし、狭い道も多い土地柄、いくら許可をもらっていてもおっぴらに路上駐車をする訳にもいきません。「車、止められた？」と気遣ってくださる利用者さんに、申し訳ないなあと思うこともしばしばです。おかげでコインパーキングをチェックすることが習慣になりつつある今日この頃。じゃあバイクがあるじゃないかと。アナタの場合、危険過ぎるのでやめておけとお達しが…バイクにすいすい乗れる人がうらやましい限りです。

ケアマネジャー 中村 里美

※駐車場の話に関わって…平成23年9月1日より『京都おもいやり駐車場利用制度』が始まっています。公共施設や商業施設などに設置されている車いすマーク駐車場を適正に利用いただくため、京都府が利用証を交付する制度です。利用証の交付は障害のある方、高齢者や妊産婦の方など「歩行困難な方」が対象です。対象となる方の要件や申請方法など詳細はお問い合わせください。

＜問い合わせ先：075-414-4551、4556 京都府健康福祉部福祉・援護課＞

## 駐車場の話

## “多事想論” 副施設長より

給食委員会より普段の利用者の“食”に対する意見を聴く機会を持つということで、フロアごとに分かれてご利用者とスタッフを交えて日々の食事について忌憚のない話を聴く機会を設けた。京都独特のあいまいさと取り繕う文化の世界にあって、そもそもお世話になっている施設に忌憚のない話をしてもらえるのか。その中で本音を引き出すことができるのか。自らの傾聴トレーニングもかねて司会進行を行った。



何気ない会話の中に見られる本音、それを引き出すための場作り、本音を汲み取るための対話術、個人の意見に巻き込まれない司会術、ユーモアで交わせるウイット術、垣根なく本音が湧き出る雰囲気創造力、そして何より先入観のない柔軟な感受性。そんなことを思いながら、調理方法、味付けなど和やかな中にも少々耳の痛くなる話や提案もあり。日々のご利用者との語らいが大きく役立った。そんな中であるご利用者から「献立だけが私の楽しみ、その献立に思っていた期待と実際に出てきた食事とのギャップに愕然とする」という鋭い指摘を喰らった。

空想と現実のギャップはわれわれでも雑誌の中のお店と実際のお店の味の期待はずれはよくある話で、人は言葉に大いなるイメージや空想を抱く。そしてイメージ通りの現実には存在しないと分かりながらもやはり空想し、落胆する。目で見るのと耳で聞くのとの違いである。その人にとって体感した美味しさも掲示された献立の中の言葉からは多様な美味しさが一人歩きしている。

改めて、物事は言葉だけでなく五感を通した実践の中にしか確かさは見出せない。先日の被災地支援活動の中で、壮絶な被災地の傷あとをメディアが言葉や映像を通して訴えるが、その地に立って、自らの目で見て、聴いて、感じる中でこそ被災者の喪失感と復興を願う思いや語りの意味を強く感じることを体験した。メディアの語る言葉が一人歩きしないように当事者と身近に関わり、つながること。

そんなことを考えると、栄養士や厨房の人々も献立のもつ果てしなく広がる多様な空想と日々戦っているのだと実感した。

副施設長 岸田 光彦

## 「食」についての座談会





## ボランティア紹介

### イベント&交流会

- ・都山流 京都尺八慰問団
- ・西念寺保育園 七夕訪問
- ・音の風&山科苑 七夕コンサート

### サークル&クラブ&サポート

- ・歌声サークル 大西 いつ子
- ・生け花クラブ 松井 智津甫
- ・ちぎり絵クラブ 橋本 和子
- ・デイサービス 澤 信子、鈴木 啓子
- ・入浴サポート 石野 義子
- ・行事サポート 小長谷 康子  
鈴木家一族  
(敬称略順不同)

皆様のご芳情に厚くお礼申し上げます。  
今後とも山科苑へのご理解、ご協力を心より  
お願い申し上げます。 山科苑 施設長



## 実習生受け入れ (6月~)

- ・ 聖母女子短期大学 II区分—1 2名
- ・ ニチイ学館 ヘルパー2級 実習 14名
- ・ ランゲート 介護職員基礎研修 1名
- ・ 花園大学 社会福祉士 2名
- ・ 華頂短期大学 II区分—1 2名
- ・ 京都福祉専門学校 II区分—2 3名



## 都山流京都尺八慰問団



### 西念寺保育園

### 七夕訪問



### 音の風&山科苑

### 七夕コラボ



## 行事予定



9月

- ・ 敬老祝賀会

10月

- ・ 秋の遠足



11月

- ・ 紅葉ドライブ



12月

- ・ クリスマス

## 編集後記

◆理解があいまいで整理ができていない部分はないかな。逆にこちらが学習させてもらったような。反省◆自分も学生時代に実習を経験させてもらいましたが、しんどいながらもメンバーの一人が「もうやめる！」と挫折をしかけたため、みんなであせって引き止めた出来事(汗)の方が印象に残ってます。◆いく夏を見送りながら、実習生の方たちを見習って、この秋は勉強の秋に？

### 相談・苦情受付連絡先

京都市山科区大塚野溝町3番地  
緑寿会 山科苑

(075) 593-0800

### 苦情解決責任者

施設長 吉澤 英樹

### 相談・苦情受付窓口

副施設長 岸田 光彦

『花咲かだより』78号 新秋号 平成33年9月1日

発行所 社会福祉法人 緑寿会

特別養護老人ホーム デイサービスセンター

居宅介護支援センター

発行担当 山科苑広報委員会

広報委員 中村 里美 安富 友視 饗庭 恵

中谷 博己